

「明日が来る」 ことがいつもうれしい と、隣の誰かと 言い合える世界

法中校長室通信

みちくさ

R7.9.3

文責：船越 路央

—「明日が来る」それがいつも嬉しいとは限らない—

被爆 80 プロジェクトのテーマソングとして発表された、ポルノグラフィティの『言伝(ことづて)』という曲の出だしは、このようにはっとしてしまう意味深な言葉から始まります。でも、何度も何度も曲を聴いていくと、そんな人たちにも希望の光が見える佳曲だとわかってきます。(下へ)

曲のラストは、

『「明日が来る」ことがいつも嬉しいと 隣の誰かと言い合える世界でありますように』

というメッセージで締めくくられます。

8月26日(火)の2学期始業式に、この歌詞を生徒たちに伝えたのは、まさにこの祈りの世界観こそ「めざす法中の姿」だと直感で思えたからです。

『言伝(ことづて)』は、80年前の8月6日に広島で起こった悲惨な姿が描かれているのではなく、被爆から3日後に広島の地に「一番電車」が走ったという事実のみが歌われます。それは人々の未来であり、希望であり、夢を乗せたものであったと想像します。当時の現実を経験していない私たちは彼らがどんな気持ちで広島への想いを作詞・作曲したのかは知ることができませんが、少なくとも、ラストのメッセージは直球で私の胸に刺さってきました。

「2学期の始まりが嫌だなあ、辛いなあ」と感じていた人、早く友達に会いたいなあ。」とっていた人、ともにあっていいんだと思います・・・そんな中、今週末の体育祭に向けて皆が「団結したエネルギー」を惜しみなく発揮している姿に感動している毎日です。「また明日ね!」「明日会おうね!」という会話が何気なく飛び交う学校・・・を、私たち一人一人で創り上げましょう! 皆さんの力が必要です。



この夏の挑戦!

～つんどく 積読からの脱却～

1学期末の終業式で「生徒のみんな、本を讀もう!」と提案した手前もあり、本棚に「つんどく」状態になっていた本を、片っ端から読むことにしました。推理あり、ファンタジーあり、ビジネス書あり・・・短いエッセイや写真集も入れて21冊読破しました。

★印は同僚や友人から薦められた本ですが、特に『爆弾』『優しい羊たちの祝宴』『かがみの狐城』は一气読みするくらい面白かったです。機会があれば皆さんの夏読書おすすめを教えてください!!

『一分で話せ』伊藤羊一

★『優しい羊たちの祝宴』米沢穂信

『東大読書』西岡孝誠

★『葉桜の季節に君を想うということ』歌野昌午

『成瀬は天下をとりにつく』宮島未奈

『動物たちは何をしゃべっているのか』山極寿一・鈴木俊貴

『ポップス歌手の耐えられない軽さ』桑田佳祐

『近畿地方のある場所について』背筋

★『かがみの狐城』辻村深月

★『エッセンシャル思考』グレッグ・マキューン

『白鳥とコウモリ』東野圭吾

『正体』染井為人 ★『爆弾』呉勝浩 他9冊

遺したい原風景 ～紙芝居屋さん～

小学生時代の思い出です。実家(米子市)の隣の空き地に、週に2・3回の放課後、紙芝居屋のおじさんが来ていました。本番の話が始まる前には「型抜き」という遊びで時間を費やします。あらかじめ薄く彫ってある型(ヨットや家)に沿って釘などの尖ったもので丁寧に割っていくと、うまく形が表れるのですが、なかなか難しくてバリッと割れちゃう。成功すると水あめが2本もらえてそりゃあ嬉しかったです。拍子木が鳴ると、いよいよ紙芝居の始まり、始まり・・・ほぼ毎日同じ内容なので、ストーリーは暗記しちゃってました。月光仮面やがいこつの話は覚えていますが、中にはクイズもあって、絵を引き出すのを途中で止めて、「さて、この動物は何かなー?」と聞いてくれる。イカとかクジラとかを出ると、また水あめがもらえる。1時間くらい経つと紙芝居屋のおじさんは、ブーと笛を鳴らしながら帰っていきます。私にとっての懐かしい原風景です。地域の皆さんが今の子どもたちに遺したい原風景は何ですか。

神奈川の親戚が我が家の子猫をひきこりに来る前日...突然子猫が姿を消しました。あきびて親戚が帰った7日後。ひきこりもどいてきました。ふしぎ?!



生徒の
名言

★夏休み 消えゆく金は 推しのせい (1年Kさん川柳より)

★夏祭り 光がどっこい きれいだな (1年Aさん川柳より)